

在学中は人間科学部に所属しておりました。印象に残っているのは、社会教育のプログラム・時間割を実際に教える立場で作ってみる体験ができる授業です。また、文教大学ではボランティアに参加する機会が多くあり、ボランティアは自ら動かなくては役に立たないので、なんとなく体験で参加していた当時はそれが重荷に感じられたのを覚えています。

しかし、授業で生涯学び続けるという考え方を知っていたので、苦手なことも学び続けていつかはという希望をもって、落ち込むことなく前向きに取り組んできました。

わたしは、卒業してからも、時間とお金が許す限り積極的に習い事や大学等の公開講座などの学習機会をもつようにしました。いま世の中では、教えを受け学び続けられる姿勢のことを「コーチャブルスキル」、また、個人がどこの会社や組織にいても活用できる力のことを「ポータブルスキル」などと言います。

自分のポータブルスキルは何であろうかと、探していると『あやなり』が自宅に届きました。校友会フェスタなどのイベントに参加しているうち、自分には「人間愛」というかけがえのないポータブルスキルがあるのではないかと気付かされ、自信が湧いてきました。

今までの学び直しの中で、書の先生に教わったわたしの好きな言葉に、人も物も同じように大事にするという意味の「知物愛惜」があります。AIや地球環境、といった、「もの」や「こと」に対しても、アプローチしていける大きな人間愛を育てる、そのリーダーとなるこれからの文教大学の100年がイメージできるのです。